

2024 年度 事業報告書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

特定非営利活動法人えひめ311

I. 避難者を支える活動

(1) 事業の成果と課題

福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業を中心に四国に避難している方々への様々な相談支援を行った。2024年度から「福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業」の対象者が福島県からの避難者のみとなってしまう、相談・交流会など全てに対して福島県以外の避難者と分けて行うこととなった。当法人としては、今まで避難元を問わず避難者支援を行っていたので戸惑う部分が多くあった。特に交流会においては、参加者対象者を限定することが難しく委託費を活用できなかった。このような状況ではあったが、工夫し相談窓口業務、個別訪問を実施することができた。

避難者からの相談は、月日の経過を感じるものばかり介護サービスが必要になったり、体調が悪化するなどが多くみられた。

避難者を支える活動の中では、個別訪問活動や帰省旅費支援事業などは変わらずニーズが高い。

課題点としては、交流会の実施が不十分だったことである。お花見交流会や四国避難者交流会の開催ができなかったことは、避難者同士のつながりをなくしてしまうことにつながってしまう。2025年度は必ず実施するための計画を立てていきたい。

予算の点にも関係してくるが、事務所が平日閉まっていることが多いので避難者にとっても地域の方にとっても有効な活用方法を考えていきたい。

(2) 事業の実施に関する事項

【 情報提供・相談業務事業 】

① (相談業務事業)

・避難者の相談窓口業務を担った。昨年度までは、平日の10時～15時事務所を開所していたが、予算の減少に加え人員確保ができず、電話やSNS中心の相談対応を随時行った。

福島県からの委託事業（福島県外避難者への相談・交流・説明会事業）と自主事業で運営し、避難元を問わず相談窓口を実施した。行政機関や国の方針とは異なる動きとなるが、当法人設立当初からの考えである『避難元を問わず』というスタンスで動いてよいのではと考え実施に至る。

・避難者の方が趣味を楽しむ時間を避難者同士で過ごすために定期的に事務所を使用するケースが見られた。

| | | |
|-------------|---------------------|-----------------|
| 相談件数 (のべ件数) | 118 件 (内福島県のみ 22 件) | (2023 年度 98 件) |
| 相談者数 (実数) | 18 人 (内福島県のみ 12 人) | (2023 年度 12 人) |
| 来所者数 (のべ人数) | 116 人 (内福島県のみ 20 人) | (2023 年度 173 人) |

②（情報受発信事業） ※福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業

- ・SNS を使って、情報発信を行なった。
- ・交流会などの各種イベント案内は、その都度避難者の方々へちらしを郵送した。

③（四国内避難者への訪問活動） ※福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業

- ・四国内避難者を対象に事前アンケートを実施し、希望された方々へお米を携えた見守り訪問を実施した。訪問時に現在の生活状況や将来的な悩みなどを話される方もおり、持ち帰った相談に対しては、継続的な支援を行った。
- ・福島県庁の担当者と一緒に避難者 2 名の自宅へ訪問させていただいた。
- ・福島県からの避難者のみ「福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業」内で実施する。
- ・今年度は、愛媛：17 世帯、香川：6 世帯、高知：3 世帯、徳島：1 世帯
合計：27 世帯（郵送：13 世帯、事務所で手渡し：6 世帯、訪問：8 世帯）
（2023 年度 愛媛：14 世帯／香川：5 世帯／高知：3 世帯／徳島：1 世帯／その他：2 世帯 合計：25 世帯）
（2022 年度 愛媛：20 世帯／香川：6 世帯／高知：4 世帯／徳島：0 世帯 合計：30 世帯）

【 被災者・避難者の『命と尊厳』を守るための事業 】

①（交流会事業）

<愛媛県内交流会事業>

- ・3 月 11 日に石手寺で開催された 3.11 追悼式後に事務所にて交流の場を設けた。夜には、事務所で火文字も行った。参加者人数は、昨年度と同様約 20 名であった。
- ・お花見交流会は、今治山林火災復旧のためのボランティアと日程が重なってしまい、実施できなかった。

<四国避難者交流会>

- ・和歌山方面へ行くための企画はしたが、日程等に問題があり実施には至らなかった。

②（帰省旅費支援事業）

- ・四国内避難者 20 世帯 55 名（2023 年度 19 世帯 42 名／2022 年度 31 世帯 47 名）の方々を利用した。家族との再会やお見舞い、お墓まいり、進学準備などのための利用がみられた。

③（健康診断実施事業）

- ・甲状腺検査をはじめとする健康診断を愛媛生協病院の協力のもと、実施した。当団体は、受診日の案内、受付窓口を担当した。合計で 4 名(2023 年度 4 名／2022 年度 8 名)の避難者が健康診断を受診した。
香川県の避難者からの受診があった。

④（自立支援事業）

- ・協働オフィスの管理事務費を充てる。
- ・砥部社会福祉協議会主催の福祉フェスタにて能登半島地震応援商品・芋煮・ずんだもち・コーヒーなどを伊予農業高校生のボランティア 5 名と一緒に販売し、合わせて当法人の広報も行った。

Ⅱ. 被災地の復興に向けた活動

(1) 事業の成果と課題

大地震と豪雨被害の多重災害が起こった石川県での支援活動をおこなった。昨年度と同様に『能登半島地震被災者支援・チーム愛媛』と共催し、被災地訪問・炊き出し・柑橘お届け・泥かき・家屋の片づけなどを実施した。

能登半島地震の復旧半ばで豪雨被害が起き、さらに地域住民を苦しめている現実を見て、私たちには一体何ができるのかと無力感と絶望感ばかりで、このような多重災害をどう表現したらよいか思いつく言葉が見当たらなかった。愛媛から能登に駆けつけても被災者のみなさんをずっと支えることはできない。それでもたった数時間一緒に過ごすだけだが、『遠くから来てくれている方にしか言えないのよ』と笑顔の底にある普段隠している悲しみ、孤独な気持ち、次の住まいへの不安、家族のこと、眠れない夜があることなど涙しながら話をしてくれる方がいる。私たちの訪問が少しでも被災者の役に立っているならばこれも成果の一つと言えるのではないかと思う。

支援活動に賛同してくださった個人・団体・学校・幼稚園・企業等からの協力を得て実施することができているので、当法人だけでは微力だが、【能登半島地震被災者支援・チーム愛媛】を発足したことで多くの方が関わりやすくなり、大きな力となり活動に結びついている。

課題としては、交流カフェのような住民とゆっくり話をできる場をもっと作り、何気ない日常会話からこぼれる被災者の方々の声に耳を傾け、今後の支援の必要性なども見えてくることがあるので、もっと回数を開催すればよかったと思う。今後は、もっと地域住民のみなさんとの対話を通じて時間を一緒に過ごすことを意識して活動内容を検討していきたい。

能登半島地震の被災地以外での活動として、2025年2月26日に岩手県大船渡市で発生した山林火災の被災地である地域へ柑橘を以下の通りお届けした。三平食堂：柑橘2箱×10kg、大船渡市母子協：物資と柑橘2箱×10kg、大船渡市キリスト教：柑橘2箱×10kg（辻村先生分）、わかめ業者：柑橘2箱×10kg

岩手県には、当法人の理事である垣下さんが地域のことをよく知っていること、加えて以前、311を知らない子どもたちプロジェクトでつながりのある所もあり、柑橘をスムーズにお届けすることができた。

(2) 事業の実施に関する事項

①（被災地支援事業）

能登半島地震被災者支援・チーム愛媛と共催して事業を行った。

活動回数：14回

活動人数：197名（延べ人数）

内容：炊き出し4回（1370食分）夕涼み会、もちつき交流会5回、交流カフェ2回、支援物資お届け12回（3000世帯以上）家屋の片づけ等のボランティア活動13回

活動内容の詳細は、以下の通りである。

| いつ | どこで | 誰に対して | 何を | 実施方法 |
|-------------------------------|----------------------|-------------|-----------------------------------|---|
| 第4回 4/5～4/7 21名参加 | 輪島市ウミュードソラ | 避難者 地域住民 | 炊き出し（150食） 個別訪問（54世帯） | 今回から2か所で炊き出しを行う。1か所で作り、もう一つの場所に運んでいく方法をとった。 |
| | 輪島市輪島診療所 | 地域住民 | 炊き出し（100食） 個別訪問（30世帯） | |
| | 七尾中島町コミュニティセンター-鉦打分館 | 地域自治会 | 柑橘お届け（270世帯） | 自治会の世話人を通じ地域住民へ配布していただき、地域のつながりの維持を図ってもらう。 |
| 第5回 4/26～4/29 13名参加 | 輪島市ウミュードソラ | 避難者 地域住民 | 炊き出し（200食） 交流カフェ 個別訪問（50世帯） | 地域住民同士がおしゃべりし、近況等を話す機会を作ろうと思い、今回からカフェも併設した。 |
| | 輪島市輪島診療所 | 地域住民 | 炊き出し（200食） 交流カフェ 個別訪問（30世帯） | |
| | 七尾中島町コミュニティセンター-鉦打分館 | 地域自治会 | 柑橘お届け（270世帯） | 避難所も閉鎖となり、住むところがない方や、地域の恒例行事もできないので地域住民のつながりがなくなっている。 |
| 第6回 5/17～5/19 6名参加 | 輪島市ウミュードソラ | 地域住民 | 個別訪問（50世帯） | 時間をかけて個別訪問をし、今後の支援を考える上での参考にするために、地域住民のニーズや困り感を聞き取った。 |
| | 輪島市輪島診療所 | 地域住民 | 個別訪問（30世帯） | |
| | 七尾中島町コミュニティセンター-鉦打分館 | 地域自治会 | 柑橘お届け（270世帯） | 自治会長から地域行事がないことを聞いたので、イベントの提案をした。 |
| 第7回 6/7～6/10 30名参加 | 輪島市ウミュードソラ | 避難者 地域住民 | 炊き出し（200食） 交流カフェ 個別訪問（50世帯） | 日用品の配布やかき氷の提供をチラシに記載し、住民だれもが気軽に集まれるような場をつくるように工夫した。 |
| | 輪島市輪島診療所 | 地域住民 | 炊き出し（200食） 交流カフェ 個別訪問（30世帯） | |
| | 七尾中島町コミュニティセンター-鉦打分館 | 地域自治会 | 柑橘お届け（270世帯） | 夕涼み会を実施することになった。会場の下見を行う。 |
| | 珠洲市正院小学校仮設住宅 | 避難者 地域住民 | 炊き出し（170食） 交流カフェ 個別訪問（50世帯） | 輪島市の団体からのつながりで炊き出しをした。 |

| | | | | |
|--------------------------------|--|----------------------------|--|--|
| 第8回 7/5～7/8 4名参加 | 珠洲市正院小学校仮 設住宅 珠洲市ボランティアセンタ ー | 地域住民 | 7/6 仮設住宅内の集会所で 交流カフェを開催 7/7 災害ボランティア派遣 | 地域住民同士がおしゃ べりし、近況等を話す機 会を作ることを目的に交 流カフェを開催。今まで の活動にてつながりのあ る仮設住宅の世話人を 通じ地域住民へ広報し ていただいた。 |
| 第9回 7/26～7/29 27名参加 | 七尾市中島地区コミュニ ティセンター鉦打分館 被災地NGO協働センタ ー | 地域住民 | 7/27 夕涼み会を開催 7/28 災害ボランティア派遣 | 以前からつながりのある 地域でまちづくり協議会 の方から住民たちが集ま る機会が減っているとの 話を聞いていたので、地 域住民のつながり維持の ために誰もが参加でき地 域住民と共同で行うイベ ントを開催した。 |
| 9/21～9/24 | 輪島市と珠洲市で交流カフェを予定していたが豪雨被害のため中止 | | | |
| 第10回 9/27～10/4 13名参加 | 金沢市、輪島市、珠洲 市の避難所、支援団 体、仮設住宅、病院等 輪島市ボランティアセンタ ー | 避難者 地域住民 支援団体 支援者 | 9/28 物資のお届け 被災状況の確認 ニーズ調査 9/30 災害ボランティア派遣 10/1 災害ボランティア派遣 物資のお届け 被災状況の確認 ニーズ調査 10/2 災害ボランティア派遣 10/3 災害ボランティア派遣 | ボランティアセンター経由 で家屋の泥だし、家財の 引き出しを行った。 今までつながりのある避 難所、支援団体、仮設 住宅、病院等へ事前に ヒアリングしておいた必要 な物資と柑橘をお届けさ せていただいた。 |
| 第11回 10/7～10/10 3名参加 | 輪島市ボランティアセンタ ー 被災地NGO協働センタ ー | 地域住民 支援団体 支援者 | 10/8 災害ボランティア派遣 10/9 災害ボランティア派遣物 資のお届け | ボランティアセンター経由 で家屋の泥だし、家財の 引き出しを行った。 |
| 第12回 10/11～10/14 | 輪島市輪島診療所 輪島市避難所 | 避難者 地域住民 | 10/12 炊き出し（150食：診 療所前配布分50食、避 | 10/12は、炊き出し班と 災害ボランティア班に分 けて活動を行った。 |

| | | | | |
|------------------------------|---|--------------|--|--|
| 10名参加 | 輪島市ボランティアセンター － 被災地NGO協働センター － | | 難所配布分100食) 柑橘お届け（150世帯） 災害ボランティア派遣 10/13 災害ボランティア派遣 | 栗ご飯といった季節を感じられるメニューのため多くの方に喜んでいただきました。 |
| 第13回 11/20～11/21 2名参加 | 金沢 輪島 | 支援団体 | 支援物資お届け | 宮城で支援物資が集まったから金沢、輪島へお届け |
| 第14回 12/9～12/12 4名参加 | 珠洲市ボランティアセンター － 珠洲市ボランティアセンター － 輪島市川原田小学校 体育館 | 地域住民 避難者 | 12/10 災害ボランティア派遣 12/11 災害ボランティア派遣 柑橘お届け | 井戸周辺の整備、家財の引き出し、ごみの分別などのボランティアを行った。避難者から連絡があり、避難所となっている体育館へ柑橘をお届けした。 |
| 第15回 12/26～12/30 23名参加 | 七尾中島町コミュニティセンター鉦打分館 輪島市輪島診療所 七尾市養泉寺 | 地域住民 | 12/28 もちつき交流会 柑橘お届け 12/29 もちつき交流会 柑橘お届け | 12/27は、同時に2か所で餅つき交流会を開催した。今回使用したもち米は、能登半島を応援するために愛媛県内の小学校で子どもたちが育てたものである。 |
| 第16回 2/21～2/24 34名参加 | 輪島市日本郷小学校グランド仮設住宅 輪島市門前グランドゴルフ場①仮設住宅 | 地域住民 避難者 | 2/22 もちつき交流会 柑橘お届け（30世帯） 支援物資配布 2/24 もちつき交流会 柑橘お届け（350世帯） 交流カフェ開催 支援物資配布 | 今までのつながりからもちつきの要望があり、新たな仮設住宅でのもちつきを開催できた。2/24に開催した仮設住宅は、能登の中でも大規模な仮設住宅であり配布等が大変だったが学びが多かった。 |
| 第17回 3/28～3/31 7名参加 | 珠洲市本郷小学校仮設住宅、輪島診療所、輪島市ウミードソー 被災地NGO協働センター － 七尾市中島林業総合センター じんのび広場 | 支援団体 地域住民 | 3/29 柑橘お届け 災害ボランティア派遣 3/30 もちつき交流会 柑橘お届け（70世帯） | 3/29は、各施設や仮設住宅に柑橘をお届けする班と災害ボランティア班に分けて活動を行った。もちつきは、地域のイベントが開催される会場内で開催し、地域住民と交流を持ちながら配布することができた。 |

Ⅲ. これから起こる災害に備える活動

(1) 事業の成果と課題

講演会や研修会の回数は、昨年とあまり変わらず 31 回だった。内容的には、防災についての講演依頼が増えてきている。古川ふれあい農園と東雲コミュニティファームの活動は例年変わりなく実施できている。昨年度から変更点としては、国土強靱化民間の取組事例集に当法人が掲載されました。以下よりダウンロードできますのでご確認ください。私たちの取り組みを多くの皆様に知っていただく1つになればと思います。

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo_kyoujinka/r7_minkan/index.html

令和7年 国土強靱化 事例集 で検索するとダウンロードできます。

もう1つ、新しい取り組みとして、内閣府が今後推進していく避難生活支援を担う地域人材の育成について（避難生活支援リーダー/サポーター研修）の講師候補に澤上が選ばれ、研修会に参加した。今後災害が起きた時に、避難所内で環境整備や被災者支援の活動をするようになります。当法人の被災地での活動が拡がることにプラスになるよう努めてければと思います。

<https://www.bousai.go.jp/kyoiku/bousai-vol/hinanseikatsusien.html>

避難生活支援リーダー/サポーター研修 で検索するとどのような取り組みなのか分かります。

これから起こる災害に備える活動の課題としては、『知らない子ども達に3.11を伝えるプロジェクト』を計画性をもって進めることが難しかったので、持続可能なプロジェクトになるよう工夫していきたい。本事業は、様々な災害が多発しているため後回しにはできないはずなのに、目の前に起こっていないことだけに未来のために動きが鈍くなってしまう。

(2) 事業の実施に関する事項

①（講演会やワークショップ、写真展等開催事業） ・2023年度 34回/2022年度 30回/2021年度 24回

| 回数 | 実施日 | 講演内容など | 実施場所 | 対象者 | 参加数 (概数) | 担当者 |
|----|---------|------------------------|------------|------------------------|-------------|-----|
| 1 | 4/30 | 災害ケースマネジメント冊子作成打ち合わせ | オンライン | 支援団体 | 10名 | 澤上 |
| 2 | 5/12 | 中央高等学校取材 | 事務所 | | 2名 | 澤上 |
| 3 | 6/4 | 災害支援プロジェクト委員会 | 愛媛県社会福祉協議会 | 災害支援プロジェクト委員 | 15名 | 澤上 |
| 4 | 6/10 | 311 避難者の支援と交流 | 愛媛大学 | 愛媛大学学生 | 8名 | 澤上 |
| 5 | 6/22.23 | 農業ボランティアと311 避難者の支援と交流 | 松前町 | 愛媛大学学生 | 5名 | 渡部 |
| 6 | 7/3 | 福島県外避難者への相談・交流事業定期連絡会議 | コラッセ福島 | 支援団体・福島県・福島連携復興センター | 50名 | 澤上 |
| 7 | 8/21 | 伊方町人権・同和教育地域推進員研修会 | 伊方庁舎 | 公民館主事・人権同和教育推進員・学校関係者・ | 50名 | 澤上 |

| | | | | | | |
|----|---------|--------------------------------------|------------|-------------------------------|-----|------------------|
| | | 災害と人権 | | 町議会議員ほか | | |
| 8 | 8/22 | 伊方町人権・同和教育地域推進員研修会 災害と人権 | 瀬戸町民センター | 公民館主事・人権同和教育推進員・学校関係者・町議会議員ほか | 30名 | 澤上 |
| 9 | 8/27 | 伊方町人権・同和教育地域推進員研修会 災害と人権 | 伊方町役場三崎支所 | 公民館主事・人権同和教育推進員・学校関係者・町議会議員ほか | 30名 | 澤上 |
| 10 | 9/4.5 | 災害ボランティアセンター中核スタッフ養成研修 | 松前総合文化センター | 社会福祉協議会職員 災害支援プロジェクト委員 | 30名 | 澤上 |
| 11 | 10/5 | 森林ボランティア | 久万高原町 | 愛媛県空調衛生設備業協会 | 多数 | 澤上 |
| 12 | 10/3 | 愛媛県ボランティア・市民活動センター運営委員会 | 愛媛県社会福祉協議会 | 運営委員 | 10名 | 澤上 |
| 13 | 10/27 | 砥部福祉フェスタ | 砥部町社会福祉協議会 | 地域住民 | 多数 | 小山・吉田・澤上・伊予農業高校生 |
| 14 | 10/25 | 「支援者支援」について | オンライン | 避難者支援団体ほか | 20名 | 澤上 |
| 15 | 10/28 | 災害支援プロジェクト委員会 | 愛媛県社会福祉協議会 | 災害支援プロジェクト委員 | 15名 | 澤上 |
| 16 | 11/6 | 愛媛県ボランティア・市民活動センター運営委員会 | 愛媛県社会福祉協議会 | 愛媛県ボランティア・市民活動センター運営委員 | 10名 | 澤上 |
| 17 | 11/9 | 愛媛大学学生祭 学生が知りたい！伝えたい！ 震災・人災と交流・支援 | 愛媛大学 | 関心のある方 | 多数 | 澤上 |
| 18 | 11/29 | 人権・同和教育参観日 | 東中学校 | 学生・保護者・教員 | 多数 | 澤上 |
| 19 | 1/10 | 拠点事業ブロック会議 | 中央合同庁舎4号館 | 拠点事業従事者 | 多数 | 澤上 |
| 20 | 1/18.19 | 避難生活支援リーダー／サポーター研修 | 岡山県倉敷 | 地域住民 | 多数 | 澤上 |
| 21 | 1/26 | かみじま福祉フェスタ2024 | せとうち交流館 | 行政関係者・一般市民 | 多数 | 澤上 |
| 22 | 1/27 | 災害支援プロジェクト委員会 | 愛媛県社会福祉協議会 | 災害支援プロジェクト委員 | 15名 | 澤上 |
| 23 | 2/13.14 | 福島県外避難者への相談・交流事業定期連絡会議 | ホテルサンキョウ福島 | 支援団体・福島県・福島連携復興センター | 50名 | 澤上 |
| 24 | 2/15 | 防災と人権 | 今在家集会所 | 地域住民 | 30名 | 澤上 |
| 25 | 2/20 | 災害ボランティア研修会 | 愛媛県社会福祉協議会 | 社会福祉協議会職員 | 30名 | 澤上 |
| 26 | 2/21 | 被災体験と防災について | 河野公民館 | 地域住民 | 50名 | 澤上 |
| 27 | 3/4 | 松山市市民活動推進委員 | コムズ | 松山市市民活動応募団 | 10名 | 澤上 |

| | | 会 | | 体 | | |
|----|--------|-------------------------|-------------|-------------------------------|-----|----|
| 28 | 3/6, 7 | 避難生活支援リーダー／サポーター研修 | ビジョンセンター日本橋 | アシスタント講師候補者 | 30名 | 澤上 |
| 29 | 3/11 | 被災地での活動報告 | イキイキサロン市坪 | 地域住民 | 多数 | 澤上 |
| 30 | 3/17 | 愛媛県ボランティア・市民活動センター運営委員会 | 愛媛県社会福祉協議会 | 愛媛県ボランティア・市民活動センター各プロジェクトメンバー | 多数 | 澤上 |
| 31 | 3/30 | 震災体験のヒアリング | 事務所 | 中央高校生取材 | 2名 | 澤上 |

② (知らない子ども達に 3.11 を伝えるプロジェクト)

・『西日本大震災』は必ずやってきます。その被害がどれ程のものになるのか、この愛媛である悲惨な出来事を繰り返さないために、東日本大震災を知らない子どもたちがこれから自分事として考えることを目的に立ち上げたプロジェクトです。今年度は以下のような取り組みを実施しました。

②-1 <知らない子ども達に 3.11 を伝えるプロジェクト：講演活動>

・実施場所：愛媛県立宇和高等学校三瓶分校三瓶分校

・実施内容：被災者の聞き書き

三瓶分校の生徒たちが 2023 年度中に被災者の体験（東日本大震災被災者 2 名、阪神淡路大震災被災者 1 名）を聞き取り、質疑応答も重ね文章に書き起こしました。三瓶高校の生徒はこの日のために、福島県や原発事故について調べ学習をしてから聞き書きを行いました。

②-2 <知らない子ども達に 3.11 を伝えるプロジェクト:被災地訪問（希望者）>

今年度は、少人数ではありましたが以下の行程どおり被災地へ訪問を実施しました。また、岩手県大船渡の山林火災被災地へ柑橘をお届けする時間も設け、多重災害被災者の心情や生業に影響が出て今後の生活不安があるなどといった話をお伺いすることができた。また、2023 年夏に本プロジェクトで宿泊させていただいた大船渡教会へお見舞いに行き、火災の時は障がい者の受入れをしたことや一日中消防車がサイレンを鳴らして走っていたことなどリアルな話を聞かせていただいた。愛媛で発生している今治山林火災が報道されているタイミングでもあり、お互いが心配し合うような様子が見られ、このような持ちつ持たれつの関係がどこか心の支えになるのではないかと感じた。

被災地訪問の記録を映像で撮影しているので、編集後、講演会や防災訓練、震災を伝える取り組みなどで使える資料として様々な場面で活用していきたい。

【行程表】 3/22（金）～3/26（水）

1日目 松山空港発19：35－（ANA）－羽田空港21：00 池袋駅発23：00－（夜行バス）－

2日目 気仙沼市役所前5：50－鶴亀食堂－東日本大震災杉ノ下遺族会慰霊碑・岩井崎散策－東日本大震災遺構・伝承館－大谷海岸－大川小学校

3日目 いわてTSUNAMIメモリアル－大船渡市キャッセン－三陸町「三平食堂」－大船渡へ柑橘お届け－道の駅さんりく－三陸町「三平食堂」－大船渡市母子協－大船渡市キリスト教－わかめ業者

4日目 遠藤先生と対面－東京電力廃炉資料館

5日目 双葉町役場－双葉町帰還困難区域へ－請戸小学校－原子力災害伝承館－飛行機で帰る

③（災害時の四国内ネットワークづくり）

・特に活動はなかったが、能登半島地震発災後の支援では、今治の V サポートさんと一緒に現地視察や炊き出しに行くなど連携を図り、災害支援の経験の少ない当法人のバックアップをもらった。また、令和 7 年 3 月 23 日に発災した今治山林火災の復旧支援を連携して実施していきたいと考えている。

④（減災農園運営事業）

<古川ふれあい農園>

- ・古川ふれあい農園の運営管理業務を行った。
- ・レインボーファームが中心となって、三葉幼稚園とさつまいも植えを実施した。
- ・能登半島地震での炊き出しの材料の提供を受けた。

<東雲コミュニティーファーム>

- ・NPO 法人四国グローバルネットワークと共に東雲コミュニティーファームを利用した事業を行った。
- ・松山市立東雲小学校 2 年生の環境学習の場として 6 月にさつまいもの苗植え、11 月に収穫を行った。
- ・NPO 法人四国グローバルネットワークが東雲コミュニティーファームで収穫したさつまいもでスイートポテトを作り、チーム愛媛が仮設住宅まで届けた。もちつき交流会の時に一緒に配った。